
G 最前線上！（体験版）

fordforest

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

G 最前線上！（体験版）

【Nコード】

N 5 2 3 5 E

【作者名】

f o r d f o r e s t

【あらすじ】

アリアという少女が居ました。ジェイという少年が居ました。あるとき地球に隕石が飛来しました。侵略者と呼ばれる生命体と人類は戦っていました。Gフロントラインと呼ばれる場所でアリアは戦います。人類の未来はどうなる！？

（前書き）

完全に頭がイカれてます。深く考えずに読んでください。

ここはとある世界のとある地球。

我々が知っている地球とは少し、いや、かなり違う地球である。

かつて宇宙から飛来した隕石から現れた侵略者である生命体が人類に対し戦争を仕掛けた。

その最前線であるGフロントラインで一人の少女が戦っていた。

少女の名前はアリア。

ソードオفشヨットガンを片手に戦う彼氏いない暦イコール年齢な少女である。

そしてそんな少女をサポートするのは彼女の幼馴染であり彼女いない暦イコール年齢な少年であるジェイである。

これはそんな少年少女の血と汗と涙と愛と友情と戦いと銃弾の物語である。

■

いきなりであるが少女―アリアという名の少女―は激しく困っていた。

「しまった、弾が切れた」

むしろ彼女にとって死活問題であった。

彼女にとって銃は最高の相棒であり最高の武器であり（以下敬称略）そんな彼女にとって銃弾が無いことは死に値する事態である。

『だからあれほど撃ちすぎるなって言っただろうがー！』

彼女のインカム越しから聞こえる男の怒声を彼女は聞いていなかった。むしろ聞く暇があるなら銃弾をよこせと言いたいぐらいの勢いである。

「だったらもつと銃弾をよこしなさいよ！」

『アホか！ 二千カートンもあった銃弾を撃ちつくすなんて想像で

きるわけねえだろうが！」

男——ジェイという名の少年——は頭をガシガシと掻きながらコンソール端末を激しく叩いていた。

「せめて核でも！」

『死なば諸共か！ それこそアホだろ！ つーかアレは国際協定でアウトだろうが！』

桃色のツインテールが風でなびくのを気にせず少女はサイドアームであるブラスターガンを構える。

「これって嫌だね。弾は無制限だからいいけど単発だし実弾のよくな威力を感じられないし」

『それ、なんて海兵隊の装備？』

男はどこか宇宙で起きている人類対機械生命体の戦争を頭に浮かべてそのイメージをウイン。ウズのゴミ箱にローキックミドルキックハイキックで捨てた。

「うーん、これでも使うか！ ちゃららったたん！ チートコード威力アップー」

『ちょ、おまつ』

少女は黒色のフロツピーディスクをブラスターガンの側面に差し込む。ブラスターガンとリンクしたモノクル型のモニターには使用可能の文字が表示されていた。

「準備完了！ じゃ、また出動ー！」

『おい、俺は置いてきぼりかー』

男は苦虫を噛んだかのような表情をして手元にあった濃い目の緑茶を一気飲みした。

■

「というわけで殲滅完了！」

途中の経過についてはあまりの惨状のためお茶の間には流せないため割愛させてもらいます。しかしアリアはどこかやり遂げたかの

ような表情を浮かべていた。

「やっぱ最後に頼りになるのは銃だね。いやー、近くに落ちていたライトマシンガンがあつて助かったよ」

『おいおい、結局銃で解決かよ』

「私に体術は似合わない！ 難しいことは撃つて解決だよ！」

『あのなー、どこかの火星の海兵隊は銃弾が尽きても己の拳で戦っていたんだぞ。さらに言うなれば強壮薬を服用したら威力がロケットランチャー並になるんだぞ』

ジェイの妙な例えにアリアは不満たつぷりと体現するかのようになり、頬を膨らませながら言う。

「だって、私、女の子だもん」

『どこかのバレー選手の子高生のようなセリフを言っても説得力がゼロを通り越してマイナスだ。言いたければそれらしくしておけ、まあお前には無理だ』

ジェイのつつこんのいちげき！

アリアは二千のダメージをくらった！

「う、うわああああん！ ジェイのくせにー！ バカー！」

アリアは泣いた。涙が枯れるまで泣いた。

『お前の嘔泣き見ても心が痛まないぞ』

「ちえっ」

■

「体験版はここまでよ」

『は？ いきなり何を言い出すんだ？』

「いいの！ だから続きは正規版を待ってね！」

『誰に向かって言ってるんだ？』

「モニターの向こうの読者様」

『よく分かん』

END?
or
CONTINUE?

（後書き）

もうね、アホかと。バカかと。俺はそんなに撃ちたいのかと小一時間（ry

そんなわけでG最前線！の体験版でした。

え？ 体験版？

ええ、体験版です。

正規版はやる気さえあればやろうかと（ry

一応ノリとしてはQUAKE2とかDOOMとかFPSの金字塔あたりのスタイルで行ってみたわけですが（ry

DOOM1と2欲しいよ。しかしクレジットカードが無いよ。（Steamで購入できるみたいだけどクレカが無い俺）

QUAKE2は高校三年（つまり去年）買って最近になって本格的にやり始めたばかり。

QUAKE3は時々。

やっぱり何も考えずに撃つのが気持ちがいいなあとか（ry

色々ネタを突っ込んでますが気にしないでください。持っていないソフトのネタはWikipediaやら様々なFPS系サイトを見たりして知識を吸収していたり（ry

DOOM3怖いよDOOM3。未だに攻略できない。頼むから直球的に来るのは俺のチキンピュアハートにはキツツイよ！

まだまだ未攻略のFPSがあるがそれでもFPS面白いよ。FPSといえばゴードン・フリーマン博士の今後も気になるし（EP2ま

で攻略済み）、ブレード大佐の続きも気になるし（オリジナル版は未攻略だがEP1は攻略済み、いつになったらEP2はきますか？）
DOM4も気になるし（DOM3及び拡張パック未攻略ですが）
QUAKE4もやりたいし（QUAKE2は当然未攻略）ほんとFPSって恐ろしいな！

BIOSHOCKは世界観が好きだなあ。ついでに言うとならばSTALKERも廃墟がいいよなあ。

MAXPAYNEはTPSだけどアクションとストーリーが完成度高っ！で。

うん、書こうかな。正規版を。

PS: water - For Relaxing Time - を聞いているとなぜか南の島に行きたくなってしまう。俺だけ？

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5235e/>

G最前線上！（体験版）

2011年1月27日04時25分発行